

10 月下旬の気温が低く、早生温州は小玉傾向であり、着色・成熟は前年、平年より進んでいます。

完全着色した果実から食味を確認し、順次収穫しましょう！

1 令和 7 年 10 月の気象

令和 7 年 10 月の半旬別の気象を表 1 に示した。平均気温は第 1～4 半旬で平年より高く、第 5、6 半旬は平年並み～平年より低かった。気温が高く推移した前年に比べ、第 2 半旬を除いて平均気温は低い傾向であった。月平均気温は 19.4℃で平年より 0.8℃高く、前年より 1.9℃低かった。

降水量は第 4、6 半旬で平年より多く、それ以外の期間では平年より少なかった。月合計は 212mm で、平年の 83%、前年の 95%であった。

日照時間は第 2、3、5 半旬で平年より少なく、それ以外の期間は平年並みであった。月合計は 78 時間で、平年の 56%、前年の 61%であった。

10 月は前半の気温が高く、後半の気温は低く推移した。降水量及び日照時間は平年より少なかった。

表 1 令和 7 年 10 月の気象（アメダス館山測候所）

半旬	平均気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	22.4	20.8	24.9	20.0	44.8	61.0	18	21	27
2	22.6	20.0	21.2	1.0	46.8	45.5	11	21	17
3	20.1	19.2	20.2	25.5	43.0	1.5	1	22	43
4	20.7	18.2	22.0	65.5	40.9	57.0	20	22	13
5	14.7	17.3	21.4	31.0	40.3	3.0	1	23	20
6	16.5	16.5	18.5	69.0	39.6	56.0	27	29	10
平均／計	19.4	18.6	21.3	212.0	255.4	224.0	78	138	128

注 1）平均／計：平均気温（℃）は平均値、降水量（mm）及び日照時間（hr）は合計値を示す

2）表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値を内訳が一致しない場合がある

2 果実及び樹の生育

10 月 30、31 日における調査園の果実生育状況を表 2 に示した。横径は「興津早生」、「大津 4 号」、「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 6.3cm、7.3cm、7.3cm で、3 品種ともほぼ平年並みであった。縦径は「興津早生」、「大津 4 号」、「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 4.6cm、4.8cm、4.9cm で、「興津早生」は平年よりやや小さく、他 2 品種はほぼ平年並みであった。

果形指数は、「興津早生」、「大津 4 号」、「青島温州」が 3 地区の平均でそれぞれ 1.4、1.5、1.5 で、「興津早生」は平年に比べ扁球傾向、他 2 品種は平年並みの扁平傾向であった。

今年度の調査果実の生育は、全体的に平年並みであるが、「興津早生」は小玉傾向である。

一部の圃場では黒点病、カイガラムシ、果樹カメムシ類の被害が見られる。

表2 果実の生育（令和7年10月30、31日）

品 種	調査地	横 径 (cm)			縦 径 (cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
興津早生	三芳地区	5.9	6.5	6.7	4.3	5.0	5.3	1.4	1.3	1.3
	千倉地区	6.3	6.3	6.7	4.5	4.9	5.1	1.4	1.3	1.3
	暖地園研	6.7	6.6	6.5	4.9	5.1	5.0	1.4	1.3	1.3
	平 均	6.3	6.5	6.6	4.6	5.0	5.1	1.4	1.3	1.3
大津4号	三芳地区	7.1	7.0	7.0	4.8	5.0	5.0	1.5	1.4	1.4
	千倉地区	7.3	7.2	7.1	4.6	4.8	4.7	1.6	1.5	1.5
	暖地園研	7.5	7.4	7.2	5.1	5.1	4.9	1.5	1.5	1.5
	平 均	7.3	7.2	7.1	4.8	5.0	4.9	1.5	1.5	1.5
青島温州	三芳地区	7.0	7.0	7.4	4.7	5.0	5.2	1.5	1.4	1.4
	千倉地区	7.5	7.0	6.6	4.9	4.9	4.6	1.5	1.4	1.4
	暖地園研	7.5	7.3	7.6	5.2	5.1	5.4	1.4	1.4	1.4
	平 均	7.3	7.1	7.2	4.9	5.0	5.1	1.5	1.4	1.4

注1) 各地点の各品種の値は40果の平均値（鳥害、落果等により調査果実の変更あり）

2) 果形指数＝横径／縦径

3 「興津早生」の果実品質

「興津早生」の果実品質を表3に示した。

着色程度は、3地区の平均で7.0であった。暖地園研がやや遅く、他2地区では平年並みであった。

糖度は、3地区の平均で10.6であった。全調査地で平年及び前年より高かった。

酸度は、3地区の平均で0.77であった。全調査地で平年及び前年より低かった。

甘味比は、3地区の平均で14.5であった。全調査地で平年及び前年より高かった。

果肉歩合は、3地区の平均で84.2%であった。平年及び前年並みであった。

表3 早生温州「興津早生」の果実品質（令和7年10月31日）

調査地	着色程度 (0～10)			糖 度 (° Brix)			酸 度 (g/100ml)			甘味比			果肉歩合 (%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
三芳地区	6.6	6.9	4.0	11.0	9.6	9.6	0.72	1.00	1.11	15.7	10.3	9.2	85.1	81.6	82.4
千倉地区	7.6	7.5	5.2	10.5	9.6	8.5	0.81	1.10	0.89	13.6	9.0	10.0	82.7	81.8	82.0
暖地園研	6.8	7.3	5.0	10.4	9.2	8.8	0.77	0.98	0.67	14.2	9.8	13.6	84.9	82.6	84.4
平 均	7.0	7.2	4.7	10.6	9.4	8.9	0.77	1.03	0.89	14.5	9.7	10.9	84.2	82.0	82.9

注1) 平年値は平成7年～令和6年の平均値

2) 甘味比＝糖度／酸度

3) 果肉歩合＝（果肉重／1果重）×100

4 11月の栽培管理

(1) 早生温州の収穫・予措

樹を観察し、着色が進み次第順次収穫する。

品質を揃えるため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから10日後に、8分着色以上のものを収穫する。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鋏を用いる。収穫容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので予措を行う。コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しの良い日陰に2～3日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 秋肥

早生温州では11月上旬、普通温州では11月中旬に、ともに窒素、りん酸、加里をそれぞれ10a当たり成分量で6、4、6kg施用する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると気温が低下するため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には、収穫後直ちに液肥を散布する。

(3) 病害虫の防除

貯蔵病害である青かび病・緑かび病の予防にはトップジンMゾル（2000倍液、収穫前日まで）等※の殺菌剤の散布を行う。

ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。

※早生温州等、収穫の早い品種については農薬の使用から収穫までの日数に注意する。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の発行元 》 千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

《 生育情報の問合せ先 》 千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室

電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>